

なつやすみに

ほん

おすすめの本

和光市図書館の職員が選んだ「夏休みに読んでほしい本」を紹介します。

幼児むけ、小学1・2年生むけ、3・4年生むけ、5・6年生むけです。ぜひ読んでみてください。

読みたい本が貸出中の時は予約ができます。くわしくは、図書館のカウンターの人に聞いてください。

ようじ 幼児むけ



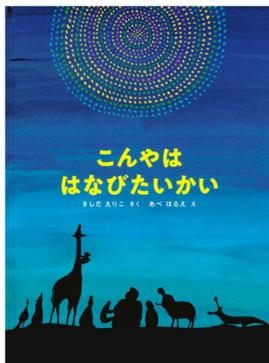
『ころころたまご』

まど みちお / 原詩 もぎ あきこ / 文 森 あさ子 / 絵 世界文化社

2024年発行 分類 E 稚

いろいろな たまごが でてきます。たまごからは なにか うまれて くるかな？

まど・みちおさんの こちよい りズムと おノマトペが たのしい しに、いろあざやかな えが くわわった えほんです。



『こんやははなびたいかい』

きしだ えりこ / さく あべ はるえ / え 福音館書店 2024年発行

分類 E 幼

はなびたいかいの よる、どうぶつえんの どうぶつたちは どんなふう に すごして いるのかな？ はなびをみた ゴリラや コアラや キリンは？ おどろいて かくれたり、まったく きにしなかつたり。いろいろな どうぶつの ほんのうが えがかれていて、なつに ぴったりの えほんです。



『ぼくのペンギンはどこ？』

サム アッシャー / 作・絵 吉上 恭太 / 訳 徳間書店 2024年発行

分類 E

あさ おきたら ぼくの ペンギンの めいぐるみが いなくなつてた。おじいちゃんも いっしょに さがして くれたけど、やっぱり みつからない。そうだ、さがしてないところが あった！ うみだ！

おじいちゃんとの ぼうけんの はじまりです。さて、ペンギンは ぶじに みつかったかな？ ウクウク たのしい おはなしです。



『あこがれの図書館』

パトリシア ポラッコ / 作 福本 友美子 / 訳 さ・え・ら書房

2024年発行 分類 E

村から町に ひっこしてきた パトリシアは、学校のかえりみち、おしろのような りっぱなたてものに 目をうばわれます。そこは町の図書館でした。パトリシアは 毎日図書館にかよい、図書館員のたすけをかりて たくさんの鳥の本とであいます。字を読むことがにがてだった パトリシアですが、大すきな鳥をとおして クラスの子ともなかよくなり、ある日クラスで たのしいけいかくをたてます。いったい どんなけいかくだと おもいますか？

のちに、絵本さっかになったさくしゃの 実話をもとにした おはなしです。

『すみれちゃんとようかいばあちゃん』

最上 一平 / さく 種村 有希子 / え 新日本出版社

2021年発行 分類 913

すみれちゃんは 山の中にある ひいおばあちゃんのうちに、おとまりすることになりました。ひいおばあちゃんは ちょっとぶきみな ふるいいえに 一人ですんでいて、ふしぎなことも たくさんおこるので すみれちゃんが つけたあだなは ようかいばあちゃんです。ようかいばあちゃんと いっしょに さんぽにいったすみれちゃんは、ふしぎなたいけんをします。いったい どのようなことが おこったのでしょうか？

この本は ほかにもシリーズがあるので、ぜひそちらも よんでみてください。

『バットマンション』

北川 佳奈 / 文 九 波堂 / 絵 アリス館 2024年発行 分類 913

バットマンションと よばれている 小さなマンションには、さまざまな虫たちが くらしています。しんぱいしょうで人のよいキリギリスや、おおらかで おっちょこちょいなマツムシ、ひとみしりなモンシロチョウや ごうかいだけど じつはやさしいカブトムシなど。こせいゆたかな バットマンションのじゅうにんと かかわる虫たちの くらしぶりに くすっとわらえる おはなしです。





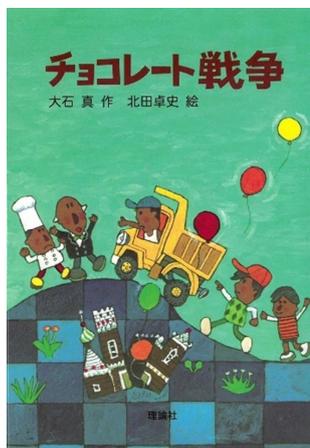
かぜ
『風はどこからくるのだろう』

よしの まさとし ぶん なつめ よしかず え ぶくいんかんしよてん ねんはっこう ぶんるい
吉野 正敏/文 夏目 義一/絵 福音館書店 2025年発行 分類 451

みなさんは、「風」と聞いて、どんな風を思いうかべますか。この春、桜の花びらが、風で散るのを見た人も多いのではないのでしょうか。

私達は、春夏秋冬、色々な風に吹かれながら生きています。私達の身の回りには、たこあげや風車など、風の利用しているものもたくさんあります。いったい風は、どうやって吹いているのでしょうか。

この本では、風が吹くしくみをとき明かします。小さなそよ風が吹くしくみから、大きな台風がなぜできるのかも、教えてください。



せんそう
『チョコレート戦争』

おおいし まこと さく きただ たくし え りろんしゃ ねんはっこう ぶんるい
大石 真/作 北田 卓史/絵 理論社 1999年発行 分類 913

町で人気の洋菓子店「金泉堂」。ショーウィンドウには、チョコレートやウエハースで作られたお菓子の城がかざられています。ある日、お店の前を通りかかった光一と明は、目の前でショーウィンドウがわるれるのを目撃します。お店の人は、二人を犯人と決めつけてしまいます。犯人あつかいされた光一は、お菓子の城をめすむ計画を立てますが・・・。

この本を書いた大石 真さんは、和光市で生まれ育った作家です。今年、大石 真さんが生まれてちょうど100周年です。『チョコレート戦争』は、長い間、たくさんの人に読まれている名作です。ぜひ、手に取って読んでみてくださいね。

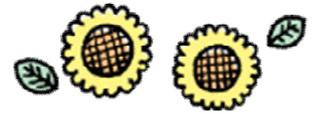


いっか
『カルペパー一家のおはなし』

マリオン アピントン/文 ルイス スロボドキン/絵 しみず まさこ やく
すいろうんしゃ ねんはっこう ぶんるい
瑞雲舎 2016年発行 分類 9337

デビーは、お父さんに、紙を切りぬいてすてきな家や紙人形を作ってもらいました。紙人形は、お父さん、お母さん、子どもが男の子4人女の子4人の家族で、カルペパー一家と名付けられました。カルペパー一家は、見るものさわるもの、初めてのものばかりです。

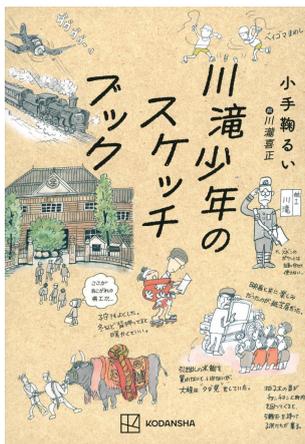
ある日、子ども達が家の前で遊んでいると、子どもの一人、アンジェリーナのすがたが見あたりません。お母さんが子ども達に聞いても、だれも知らないのです。アンジェリーナは、一体どこへ行ってしまったのでしょうか。続きは、読んでたしかめてみてください。



『待ってろ！甲子園』

日比野 恭三 / 著 ポプラ社 2024年発行 分類 783

青鳥特別支援学校は、知的障がいがある高校生たちが学ぶ学校です。ものごとを理解したり、言葉をあやつる力の発達に遅れがあるため、ルールが難しく、かたいボールを使う野球は簡単ではありません。野球が好きでもチームに入れないことも多いのです。「障がいのある子どもにも野球を楽しんでほしい」という久保田先生の思いと「野球をやりたい！」という生徒たちの思いが一つになり、部員も増えていき、ついに青鳥特別支援学校ベースボール部は、夏の甲子園予選大会に出場します。それは長い歴史の中で、初めてのことでした。夢は遠くにあっても、可能性を信じて進む大切さを私たちに感じさせてくれます。



『川滝少年のスケッチブック』

小手鞠 るい / 著 川瀧 喜正 / 絵 講談社 2023年発行 分類 913

アメリカに住む少年・深青は、お母さんから一冊のスケッチブックを渡されて、夢中になって読み始めます。それは、日本でくらすおじいちゃんが自分の少年時代を書いた絵日記でした。昭和のはじめの楽しいくらしは、戦争が始まると一変します。大人だけではなく子ども達も戦争に巻き込まれていきます。学校の授業はなくなり、戦争のために訓練をして、働きました。

本の作者である小手鞠るいさんのお父さんが、実際に書いたスケッチブックから作られた物語です。小手鞠さんのあとがきも、ぜひ読んでみてください。



『12歳のロボット』

リー ベーコン / 著 大谷 真弓 / 訳 早川書房 2021年発行 分類 933A

世界をめちゃくちゃにしてしまった人間たちをロボットが消滅させてから30年後のお話です。12歳のロボット X R 935は、毎日規則正しく同じ仕事をしていました。ある日、X R 935は、絶滅しているはずの人間の女の子エマに出会います。ロボットの規則に従うならエマを消去しなければならないのですが、エマはロボットより強そうには見えません。X R 935は、仕事仲間のシーロン、S k Dと一緒にエマを目的地まで送る旅に出ました。エマは一体どこから来たのでしょうか？エマの行き先は一体どこなのでしょう？